

参拝の記憶

花巻神社宮司 吉田浩明

昨年の12月1日付けをもって総代会の承認のもと、宮司の職を父から引き継がせていただき、約1年となります。素より浅学非才の身であり、改めて任の重さを日々痛感しておりますが、当地域の繁栄と安寧を切に祈り、社務に努めて参る所存ですので、先代と変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

また、一昨年、昨年と陛下御即位の記念事業実施の際には、総代の方々に始め、地域の代表される方々のお力添えをいただき、みなさまにも多くのご協力ご奉賛を賜りましたことは誠に感謝に堪えません。

特にも、記念事業のおかげで輝きを取り戻した花巻神社の御神輿が神輿会の方々に担がれ蘇った約50年ぶりの荘厳な景色は、みなさまの畏敬の念の結晶でありました。改めて紙面をお借りして篤く御礼を申し上げます。

■御朱印は「巡拝文化の象徴」

最近では、小学生のお子さんからご年配の方まで参拝の折に御朱印を受けられる方が増えてきております。時にはA4サイズの特大御朱印帳を持って来られるなど、こだわりがあるものもあり、驚かされ、また楽しませてもらっています。

御朱印は江戸時代後半に、各地の社寺巡礼者に「参拝の証」として、出されるようになったものから広がり、現

在に繋がっており、各地の神社をお参りする巡拝文化の象徴ともいえます。

特にも、昨年の天皇陛下御即位のとき、また「平成」と「令和」が切り替わる改元のときは、「大晦日か元日か？」と思うほど参拝に來られ、御代替わりの注目の高さで御朱印ブームを体感した時となりました。それほど多くの方々が関心を寄せられていることを嬉しく思っております。

■参拝の記憶

ここで改めて当社の御朱印をご紹介します。当社の御朱印には大きな特徴が2点あります。

まずは「印」。神社の印の他に、花巻の地名の元と言われている桜の花が川の流れに渦巻いている「桜の流水印」と季節の花などの印を押印しています。2点目は、墨や朱印が次のページに色移りしないようにしている「はさみ紙」や「見開き御朱印」という2ページを使った御朱印には季節の「和歌」を記しています。

当社の境内には、御神木を始めとする常緑樹、10種類以上の桜、総代さんたちが心を込めて植樹戴いたツツジやアジサイ、他にも梅やコブシ、萩、紅葉、椿など、季節を彩る樹々の集う「鎮守の森」であります。

四季を五感で感じた記憶を、御朱印を見返されたとき、印や和歌を通じて、参拝したときの雰囲気を感じ起すも

のとなればと思っております。(※但し、見開き御朱印は、例大祭や正月の時期など、残念ながら祭儀優先のため対応できないこと、予めご容赦いただきたいと思えます)

■コロナ禍での対応変化

本年も多くのご参拝の方々が来られるよう準備しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、御朱印の対応も難しくなり、四月から九月までは「書置き」という、予め墨書押印して御朱印帳に糊などで貼れるものをお受けいただいております。

当社の場合、御朱印をお受けになられる方々の約半数は県外の方々であり、国の方針が決まっておりますは振り鈴を取り外し、手水舎の柄杓を撤去することや消毒液を各所に配置するなど、できるだけコロナ禍拡散防止の手立てをして参りました。

そのことで、普段とは少し違う参拝となり、みなさまにはご不便をお掛けしておることを心苦しく思っております。このコロナ禍が過ぎ去り、みなさまが、大きな鈴の音を響かせてご参拝いただくことを、今か今かと待ち望んでおります。



見開きの御朱印

■「書」に関わること

個人的にも昨年は、「花巻まつり」の公式ロゴの公募で選ばれた記念の年、驚きの年でもありました。

選ばれましたことは偏に、花巻地区のみなさまが花巻まつりに傾ける熱意を、普段から見せて戴いていた経験を活かして成ったものと感じております。



■おわりに

今年は、コロナ禍の中、例大祭の対応も普段と大幅に違い、できる限りの精一杯の祭儀を、役員・総代の皆様方の知恵とご協力をいただき執り進めて参りましたが、経験の無い祭儀であったが故に、ご迷惑をお掛けしたことを思います。

今後、早期に疫病が退散し、普段通りの賑やかなおまつりの準備を進め、みなさまが笑顔で当社にお参りいただきますこと、心よりお待ち申し上げます。

◆編集後記

コロナ禍で会報発行が危ぶまれる中、執筆をご快諾いただいた皆様に深く感謝いたします。

編集長 鈴森直明